

# 神原インターンの 13期生の つながる通信

それぞれが  
関心をもった  
テーマについて  
調べました!!

## 発達障害の子どもたちと 地域とのつながり

発達障害は、サポートの難しい障害であると言われています。ざわつきを恐怖に感じたり、聞いたことをすぐに忘れてしまうなど、個々で苦手な部分が異なるからです。だからこそ発達障害の子どもたちは、自分たちを理解してもらいたいのではないか、また遠く離れた支援学校に通学する発達障害の子どももいるので、地域とのつながりが更に必要ではないかと考えました。そこで、例えば、発達障害者と健常者の子どもたち、地域の人たちとでお楽しみ会を開く、地域の人たちが支援学校の通学バスで、趣味を披露することで交流する、多くの発達障害の子どもたちに地域の市民体育祭に参加してもらう、というような取り組みを考えてみました。

(※)発達障害の「害」の字を漢字表記している理由は、社会が障害者に対して壁を作っていることに問題意識を持ってもらいたいと思ったからです。



小さいころから  
ポール

関西学院大学  
総合政策学部  
1回生

田畑祐起

## 待機児童

私は、豊中市の保育所待機児童について調べました。豊中市には現在75人もの1~2歳の待機児童がおり、豊中市は、認定こども園設置や民間保育所の定員500人増を実施しています。しかし、それでも待機児童は増え続けています。将来、少子化により子ども的人数は減少していくとされている上で私が考えたことは、老人ホームやデイサービスと保育所の複合施設を建てることです。実際に複合施設は全国に何か所か存在し、豊中市にも建設したらどうかと考えました。これは現在核家族で親戚とも疎遠になる中、高齢者と子どもの世代間交流が生まれます。

この2か月間で考えたこともないような政策について研究することができて楽しかったです。



いわね

同志社大学  
法学部 1回生

大岩根未稀

## ニート

私は、インターン活動の一環としてニート問題について調べ、その解決策を探しました。この問題に取り組んだ当初、私は「ニートは気持ちの問題なのだから、無理やりにも働かせればいだけだ」と思い、どうにかしてニートを働かせる方法を探していました。しかし、調査をするうちに、ニートとは雇用慣行や不況、いじめや家庭環境などの対人関係のような現代日本の問題点を包括したような存在ではないかと思うようになりました。

まだニート問題に対する有効な解決策は打ち出せていませんが、私はこの問題に取り組むことで、自分の視野の狭さを思い知りました。

これからは、このインターン活動で培った知識と視野で、新たな視点からニート問題について考え続けたいと思いました。



そのまま

みゆ

立命館大学 政策科学部

2年生

横馬場美友



## いじめ

私はいじめについて考えました。教育委員会の方のお話では、豊中市の子どもたちは、人権教育の成果で、「みんなそれぞれ違うけれど、ともに生き、ともに学ぼう」という意識がとても高いということです。しかし、私はその教育を少し物足りなく感じます。人間の感情には、愛や思いやりのような温かな感情もあれば、嫉妬や憎しみといった暗い感情もある。豊中市ではその温かな感情の教育はとても盛んだと思うのですが、暗い感情についての教育にあまり目が向けられていないと感じます。いじめのもととなりうる暗い感情を持つことは人として当然だということをきちんと認めたくうえで、その感情との向き合い方について考えさせる教育を行うべき、というのが私の提案です。

## インターンを終えて

2か月間、本当に貴重な経験をさせていただくことができました。

たくさんの方々のおかげです。ありがとうございました！（ポール）

大変だったけれど、インターンに参加してよかったです。（いわね）

私は、この2か月間のインターンシップ活動でたくさんの経験をして、たくさんの人々に 出会うことができました。大変なこともありました、その一つ一つが私の自信につながっていると思います。

このインターンシップで得たことを活かして、また新たなことにチャレンジしていきたいです。

本当にありがとうございました。（みゆ）

このインターン活動でいろいろな方々のお話を聞いたことで、見える世界が広がりました。また、街頭活動、研究発表など、たくさんの方にチャレンジすることで、自分の壁を乗り越えていくことができました。本当に貴重な経験ができました。ありがとうございました！（ちゃそ）

やさしさを→ちやそ

ちやそ

大阪大学

外国語学部

1年生

橋本由紀

